

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 楽々 )

事業所番号	O693000051		
法人名	株式会社 ライフネット		
事業所名	グループホーム ほなみ家		
所在地	東田川郡庄内町余目字四ツ興野52番地		
自己評価作成日	平成23年 8月 5日	開設年月日	平成22年 10月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのつながりを大切にし、馴染みの地域で、なじみの方や地域の方と交流し、楽しく喜びのある生活ができるよう努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後1年未満の事業所ではあるが、隣接する法人の小規模多機能型居宅支援事業所の経験を活かし、地域とのつながりや、その人らしい生活の支援等地域密着型サービスの意義や役割が職員等に定着している。共用空間は木調と白を基調にした内装で、落ち着きがあり、廊下や居間の天井が高く広々とした空間で、テーブルやソファ、外のデッキ等思いおもしろい過ごし方が出来る居心地の良い空間となっている。2つのユニットは構造的にはあまり変わらないが、家具等の色調を変えることにより、それぞれ個性が表れ、落ち着きの中に、明るさやさわやかさが演出されている。代表者と職員は、今後様々な課題に前向きに取り組み、さらなるサービスの向上が見込まれる事業所である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 23年 8月 25日	評価結果決定日	平成 23年 9月 6日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設玄関に掲示し、出勤時に再確認して、念頭に置き支援している	理念は事業所の開設の準備段階において、代表者、管理者及び職員の話し合いの中から作り上げている。職員はよく理解し日ごろから理念にそった日々のケアの実践に努力しており、管理者は折に触れその実践状況の確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、町で主催の長寿サポーターの受け入れ、地域住民参加の施設の夏祭りなど年間行事で、交流している。	夏祭りの住民へ参加の呼びかけや、長寿サポーターやスカット教室等の地域住民の受入れを行い、事業所の理解を深めるとともに、近所の保育園との付き合いや、散歩の折住民に声かけやあいさつを行い日常的なつながりも大切に、地域とのつながりを深める努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方と日常的に関わりを持ち、認知症の方への理解に努める努力をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者からの意見・要望を受け、サービス向上に生かしている。	2か月に一回の割合で開催されている。事業所の現状や計画等報告するとともに、家族からの意見要望等を議題にあげ、委員の方から意見をいただいてサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者情報や疑問点・問題点など常に連携を取っている。担当者は運営推進会議へ参加して頂いている	運営推進会議に参加して頂いていることもあり、状況報告等行っているとともに、折に触れて、疑問点や問題点について連絡を取り、協力関係を築けるよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>日中は玄関の施錠はせず、自由に出入りできるようにしている。又、職員の皆が意識し、防止に向け常に努力している。</p>	<p>職員は身体拘束の具体的な内容やその弊害を正しく理解しており、見守りや寄り添うことにより安全を確保し、利用者の要望等よく話を聞くことによって引き起こす症状の原因分析を行い、身体拘束を行わないですむケアの工夫を行っている。帰宅願望のある利用者にも、外に出ることを拒まず寄り添い付き添うことで鍵をかけずに過ごせる工夫を行っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>スタッフ会議や研修を通して高齢者虐待防止等について学び、防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会で必要な知識は得るようにしている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分に説明し同意を得るように心がけている。又、不安があれば都度説明行っている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家人来訪時には、要望や苦情を言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けている。</p>	<p>職員は面会時等家族と接するときは必ず声かけし、意見や要望を言ってもらえるよう積極的に働きかけ、要望等を言いやすい雰囲気作りに取り組んでいる。表された意見や要望は、スタッフ会議等で協議しサービスの向上に繋げる努力をしている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎朝の朝礼や、毎月1回、スタッフ会議とユニット会議を行い、職員の意見や提案を聞き入れ改善に努めている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の参加、勤務状況に応じての加算や時間外勤務の手当もあり環境の整備は整っている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最低1回は施設外研修の場をもうけてくれている。又、意欲的にいくつもの研修に参加希望し、出席しているスタッフもいる。	管理者は職員の力量を把握し希望等も考慮しながら外部研修に参加できるよう工夫している。派遣された職員は復命書を提出し、職員間で回覧や、会議の中で伝達を行って情報の共有を図っている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	庄内地域医療連携の会、酒田市介護サービス事業者連絡協議会などの研修会に参加し、情報交換を行いながらサービス向上に努めている。	地域の研修会に管理者や職員を派遣することにより、管理者間、職員間による交流を大切に情報交換を行いサービスの向上に役立っている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に自宅を訪問したり、施設を見学に来訪して頂くなどし、必ず本人と面談を行い、本人の思いや不安を理解するよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に必ず家族と面談を行い、不安や悩みを聞いて差し上げられる様、心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを確認し、改善に向けた対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状況に応じて、家事分担を行っている。又、レクリエーションや茶話会など、楽しみを共有する時間も作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時に情報交換や電話連絡を通し、協力を頂きながら連携している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方や知人・友人が訪ねて来る。気兼ねなく訪ねられる様、居心地の良い環境作りに努めている。又、なじみの床屋さんに出掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を理解し、トラブルに配慮しながら、関わり合うよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後も家族の来設あり、相談業務を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人への聞き取りや、日々の関わりの中で、把握するよう努めている。	利用者それぞれに担当者を定め、本人、家族等からの情報を基に、入居前の生活歴を把握する他、日々の何気ない会話や係わりの中から利用者の希望、意向を把握している。アセスメント様式はセンター方式を採用し思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・知人から具体的な情報を得よう、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の口頭での申し送りや、連絡ノートを活用し、職員間での情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の思いを確認し、改善に向けた対応を心掛けている。</p>	<p>担当者と計画作成担当者による3か月ごとのモニタリングを基に状況等の変化に応じて介護計画の見直しを行っている。また職員による普段の気づき等をスタッフ会議で話し合い、職員の意見を活かした計画の作成に努めている。</p>	<p>事業所では口腔ケア等熱心に取り組んでいる利用者もあり、より積極的に細かいサービス内容を含めた介護計画の作成を今後期待したい。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録の他に、温度板や日々の気づきを、連絡ノートに記入し、全ての職員で情報を共有している。</p>	/		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載）</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>		/		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>長寿サポーターのボランティアが毎月来設し、レクリエーションなど行っている。</p>	/		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関の月2回の往診と、家族希望の医療機関への送迎や付添、情報提供行っている。</p>	<p>かかりつけ医は利用者や家族の希望を基に、支援を行っている。希望の医療機関への送迎も行っているが、家族の立会いもお願いし、事業所、家族、医療機関の情報の共有が図られている。</p>	<p>事業所と家族との間の情報の共有をより確実なものにするためにも、文書による情報の共有の検討を期待したい。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>その都度、体調の変化を看護師に伝え、医師の指示を仰いでもらっている。</p>	/		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	病院への情報提供行い、医療連携室には電話や来訪し、相談に努めている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し同意を得ている。医師と連携を取りながら支援している。	重度化した場合や終末期のあり方については最初に説明を行っている。開設間もないこともあり事例はないが、状況の変化に応じて、繰り返しの話し合いと段階的な合意を得るため、方針の共有や仕組み作りを検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特変時の対応マニュアルを作成し、AEDの使い方の勉強会を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携し年2回の防災訓練やマニュアル化、自治会長の緊急連絡網での応援体制などある	年2回の避難訓練や地域への協力の呼びかけなど、災害対策について努力している。今年は敷地内において消防団による操法訓練を予定している。3月の震災に伴い事例検討を行い、発電機の購入や食糧の備蓄など行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアル化しプライバシーに配慮した声かけを行うよう努めている。	人格の尊重として、利用者には常に敬意をはらい、羞恥心に配慮した言葉かけや対応に心がけ、管理者や職員は、気が付いた時は常に注意しあいプライバシーに配慮したケアの実践に努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志表示しやすい環境や場面を作るよう、心掛けている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、一人ひとりのペースを大切に、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時などは、職員と一緒に洋服を選んでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることを一緒に手伝ってもらい、職員も一緒に食事を食べている。	利用者それぞれの能力や意向に沿って出来る事は手伝ってもらい、3食職員により食事を作り利用者と一緒に食事をしている。おやつや行事食はなるべく利用者の希望を取り入れ提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し、食欲ない時には高カロリー食を捕食したり、水分摂取量の少ない方には、水分補給ゼリーの素などで、ゼリーを摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るところまで声かけ・見守りで行ってもらい、出来ない方や磨き残しは、職員が手伝っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握し、誘導するようにしている。オムツ使用の方も、日中はトイレで排泄できるよう誘導を行い、排泄促している。	排泄チェック表により排泄リズムを把握し、適切なタイミングでさりげなく誘導し、また見守りの中で表情やしぐさから判断し誘導することにより、トイレでの排泄に向け努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックや、食事にも食物繊維や乳酸菌など考慮して献立に組み込んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の順番や時間は、本人の希望を聞きながら、意志を尊重した支援を行っている。	一応決まりはあるが、利用者の希望や状況に応じ個々に応じた対応をしている。利用者の身体的な状況に応じられるよう機械浴の設備もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は設定せず、生活習慣にあわせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルで内容を把握できるよう取り組んでいる。内服薬に変更があった場合は、連絡ノートや申し送りでも全職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持った生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天気にもよるが、買い物に出かけたり、馴染みの床屋さんへ出かけたりしている。	行事としてのドライブ等の外出や、体調や天候に配慮しながらの買い物や散歩など外出の機会の確保に努めている。事業所の居間に接するデッキは、気分転換等外気に触れながらくつろげるスペースになっている。家族等の協力を得ながらお盆にお墓参りに行かれる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設や家族管理していますが、個々の金銭管理能力に応じ、個人的にお金を所持しています。また、施設で預かり、買い物時に自分のお金で好きなものを買ったりもしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望時は、自ら電話をかけ、好きな時に話ができるように支援している			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、掲示物にも季節感を取り入れ利用者様と一緒に作成している。ホールには、空気清浄機の除菌があり、快適に過ごせるよう努めている。	木調と白を基調にした内装で、季節感を感じさせる飾り付けもさりげなく、落ち着きがあり、廊下や居間の天井が高く広々とした空間で、テーブルやソファ、外のデッキ等思いおもいの過ごし方ができる居心地の良い空間となっている。双方のユニットをつなぐ廊下は長く、歩行訓練等にも利用でき、アクセントにベンチを配置し、無機質な空間にならないよう配慮されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチがあり、一人になりたい時は、ゆっくりと過ごして頂いている。ユニット間も自由に行き来できるので、気の合う人とソファで過ごしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたテレビや、ラジオ・時計など使用し、本人が居心地よく過ごせるようにしている。	利用前の環境のギャップを感じさせないよう自宅で使用した馴染みの物の持ち込みができ、利用者それぞれが写真や思い出の品で飾りつけされ居心地の良い居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっており、ユニット間の廊下に手すりが設置されており、その長い廊下を活用し、リハビリを行っている。			